

報道関係各位

2019年7月12日
株式会社川島織物セルコン

日本の菊づくし
『日本 × 菊³』展 開催

会 場:川島織物文化館
会 期:2019年7月19日～2020年8月20日

株式会社川島織物セルコン(本社:京都市左京区 社長:山口進)は、本社に併設の川島織物文化館(京都市左京区)で、日本人になじみの深い「菊」の花をテーマにした収蔵作品を紹介する『日本の菊づくし』展を2019年7月19日から開催します。

菊は中国原産の花で、奈良時代から平安時代に日本に伝わって以来、多くの場面で使われ、人々を魅了してきました。

現在でも、日本の生活の様々な場面で登場し、生け花や鉢植えはもちろん、五十円硬貨、パスポート、ひいては皇室のお印である菊花文様など、様々な場面で使われ、日本人の生活に溶けこんでいます。

川島織物セルコンも古くから帯のモチーフにとして用いたり、間仕切りや額縁のデザインに取り入れるなど、色々な場面で菊を採用してきました。とりわけ明治37年に開催されたセントルイス万国博覧会へ出展した「若沖の間」には、百種類もの菊の花葉を装飾に用いており、デザイナーの菊への思い入れが感じられます。今回は、日本人の生活と切り離せない花として親しまれてきた「菊」をテーマに収蔵作品を紹介します。

また同時に、9月に京都で開催される第25回 国際博物館会議(ICOM) 京都大会の開催記念イベント“夏の京都のミュージアム”^(※)に参画し、「川島織物文化館と手織工場ガイドツアー」も開催します。



紋織帯地試織「四季の芳」

※主催:ICOM 京都大会 2019 京都推進委員会

日本の菊づくし 日本×菊³

- 【会 期】2019年7月19日(金)～2020年8月20日(木)(予定)
- 【会 場】川島織物文化館 (<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>)
- 【休館日】土・日・祝祭日、夏期、年末年始(川島織物セルコン休業日)
- 【入館料】無料

このリリースに関するお問い合わせ

株式会社川島織物セルコン(<https://www.kawashimaselkon.co.jp/>)
報道関係の方から 広報担当 有賀・松本 TEL:075-741-4316

※当リリースは、京都経済記者クラブにお届けし、当社ホームページ(<https://www.kawashimaselkon.co.jp/>)、LIXILホームページ(<https://www.lixil.co.jp/>)でも発表しています。

< 参考資料 >

主な展示作品

- ・ 紋織帯地図案「菊唐草」(明治期)
- ・ 紋織帯地試織「四季の芳」(明治期)
- ・ 綴織仕切張地試織「菊真垣」(1922)
- ・ 綴織壁掛「湊川合戦」(1920) 展示期間：2019年7月～9月



紋織帯地図案「菊唐草」



綴織仕切張地試織「菊真垣」



綴織壁掛「湊川合戦」

特別企画

川島織物文化館 と 手織工場 ガイドツアー (予約不要)

普段は入れない緞帳や帯を製作している手織工場と、川島織物文化館を作品解説付きで案内するツアーを実施します。

開催日：2019年7月19日～9月13日の月曜日・金曜日(8/2、8/16、9/6は除く)

開催時間：13:30～15:00 (受付 13:20～)

定員：10名(先着順)

川島織物文化館 概要

1889(明治22)年に二代川島甚兵衛が京都・三条高倉に建てた三階建ての洋館「織物参考館」に始まる国内最古の企業博物館。初代・二代 川島甚兵衛がモノづくりの研究のため世界中から収集した染織品、古書類、製作してきた原画類・試織など、織物に関する貴重な資料を保管しています。

館内では、これらの史資料や当社が手がけてきたプロジェクトにまつわる資料やエピソードを紹介し、織物の魅力や当社のこだわりのモノづくりを紹介しています。



所在地：〒601-1192 京都市左京区静市市原町265 株式会社川島織物セルコン内

TEL：075-741-4120

開館時間：午前10時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日：土、日、祝祭日、夏期、
年末年始(川島織物セルコン休業日)

入館料：無料

見学予約：見学は事前予約制
ご予約専用TEL:075-741-4323

ホームページ:

<https://www.kawashimaselkon.co.jp/bunkakan/>

アクセス：●地下鉄「国際会館」駅より
●京都バス(50/52系統)「小町寺」下車 徒歩約5分
●タクシー 約10分
●叡山電車 鞍馬線「市原」駅下車 徒歩約7分
●京都駅より タクシーで約40分

